

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

学校名	唐津市立厳木小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・新型コロナウイルスの影響で、随時更新される「新しい生活様式」に則った対応を迫られる中、模索しながら進める教育活動であったが、「どう工夫して行かうか」を中心的柱に据え、様々な対策や工夫をしながら子どもたちにとっての「今年しかないこの一年」を実りあるものにするために、みんなで知恵を出し合いながら進めてきた。そんな状況であったからこそ前例踏襲ではなく、新たに見えてきた改善し得る点、別の方法や考えも新たに加わり、その分意味あるものとなっていった。正に「ピンチはチャンス」であり、固定観念に捕らわれない、現実合った教育活動を柔軟に創り上げる大きなきっかけとなる一年となった。</p> <p>・学校を教職員主導で動かすのではなく、教職員は黒子となり、いかにも児童自らが動かしているように意識をもたせることで、学校に活気があふれ、児童の自信に繋がっているように思う。本校はその体制ができており、年度末に近づくと、特に5年生が「次は自分たちが学校を動かす番だ」という意識を強くもつ。この体制は、今後も大事にしたい。</p> <p>・校内研については、3年間外国語教育に取り組んできた。今年度は新学習指導要領にあわせて評価の研究を中心に取り組み、成果をあげた。来年度は、これを土壌にして更に研究を深め、指導力向上に繋がるテーマを設定して行っていきたい。</p> <p>・特別支援教育を大きな課題として、全ての児童の実態に応じた指導・支援のできる体制を模索してきた。各専門機関との連携も密に行いながら進めてきたことで、よりよい方向に向かっている。全児童・保護者の期待に応えられるような教育活動の在り方を更に探ってきたい。</p> <p>・学校、家庭、地域が一体となって連絡・共有を図り、地域の方々が子どもを通わせたいという安心と信頼のできる厳木小学校を期待されているので、それにしっかり応えられるよう努めていきたい。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	豊かな心を培い、夢に向かって、主体的・創造的に活動する子どもの育成 ～ふるさとを愛し、人に優しく、一人一人が伸びる学校 厳木小学校～
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>1 主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫</p> <p>2 子どもたちの学習習慣の確立</p> <p>3 子どもたちの考えが生かせる場面を設定し、主体的・創造的に活動できる力の育成</p> <p>4 心の教育（一人一人を大切にすると人権教育）の深化と充実</p> <p>5 地域人材の活用、地域での体験活動の推進</p> <p>6 校内研究、職員研修の充実、業務改善と働き方改革の推進</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
重点取組		具体的取組	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・月末にチェックシートを記入し、指導法を振り返るとともに、項目毎に平均点を提示し、平均点が3.5以下の項目は、重点項目として共通理解する。
	○GIGAスクール構想の中で展開させる、主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫と家庭学習習慣の確立	○児童司会に取り組み「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、全教科半分以上の時間で、話し合う活動と振り返り活動を行う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権教室に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童85%以上	・月1回のおひさま朝会の実施 ・人権擁護委員による人権教室の実施 ・地域の方と連携した体験活動の実施 ・人権・同和教育に関する校内研修等の実施
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめについて組織的対応ができていると回答した教職員85%以上。	・QUアンケートを実施し、その結果を生かした指導を行う。 ・学期に1回の生活アンケートの実施と活用。 ・定期的に「ともだちアンケート」を実施し、その後の丁寧な聞き取り・指導の実践を行う。
	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○児童アンケート「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした児童85%以上	・キャリアパスポートを活用した教育活動についての研修を行い、実践していく。 ・実行委員形式による学校行事や児童会行事、児童司会による授業づくり行い、児童の主体性を育む活動に取り組む。
●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着化	①児童アンケート「元気に運動や遊びをしている」と回答した児童95%以上	・体育的行事や縦割り活動を通して、「運動が大好きな子ども」を育てる。 ・コロナウイルス感染に考慮した運動能力向上につながる動きや遊びを職員間で共有したり、授業の中で児童に紹介したりして、休み時間にも取り組めるような環境を提供する。
	●望ましい生活習慣の形成	●家庭で約束したスマートフォン・ゲーム時間の遵守と「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身に付いた児童80%以上。	・授業において睡眠の大切さを伝えるとともに、生活アンケートを定期的実施し、児童の意識を高める。 ・家庭に対して特に週末の生活(就寝時間やゲームやスマートフォンの時間)について呼びかける。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・時間外勤務時間をこまめに行いながら、勤務の適正化がよりよい教育効果に繋がることが伝え、タイムマネジメントの習慣化を図る。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組		具体的取組	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○ 地域人材の活用と、地域での体験活動の推進	○積極的に地域人材の活用をし、地域での体験活動の推進の中で育む、ふるさとを愛する心と主体的・創造的に活動できる力	○地域の方々から見た児童の活動に関して肯定的な回答85%以上	・コロナ感染防止対策を徹底した上で、地域からのゲストティーチャーを必要に応じて積極的に招き、体験活動を通じた学びを充実させる。 ・地域の方々へ学習の成果を発表する機会を設け、学んだことについての考えや思いを伝える。
○ 校内研究・職員研修の充実	○研究テーマに沿った研究の充実及び教員の専門性の向上	○外国語教育の進め方に関する専門性が向上した教員80%以上	・外国語教育に関する職員研修を積極的に講師を招聘して行う。 ・評価及び言語活動の充実を柱とした研究の推進を学年部での授業研修などを通して行う。
○ 特別支援教育の充実	○支援体制の確立と教員の専門性や意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80パーセント以上(アンケートで)	・特別支援に関する研修会の実施(夏休み) ・ケース会議の開催、巡回相談の要請、情報共有 ・外部機関との連携(SC, SSW) ・特別支援教育の情報や資料の提供

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育